

心にそっと差し込む光



『メリー・クリスマス・トゥ・ユー! 4 あなたとともにある希望』

B6判 110頁 定価：660円(税込)

岸本大樹・藤原導夫・鈴木雅也・加藤歩名・山形宣洋・泉和子・松原宏樹 共著



7人のメッセンジャーによる、クリスマス为主题にした聖書からのメッセージ集シリーズ第4弾。1つ1つの話が聖書を読んだことのない人にも読みやすく、分かりやすく、クリスマスの本当の意味がしっかり伝わってくる。

○執筆者プロフィール○

吉澤慎也

千葉県船橋市出身。東京基督神学校卒業。キリスト者学生会(KGK)主事として学生宣教に携わる。2022年より総主事。日本福音キリスト教会連合宣教教会協力教師。



さらに聖書、キリスト教、キリスト教会について知りたい方はこちら
オイコスオフィシャルページ▶



EVERY
HOME
CHRIST

発行/いのちのことは社 EHC (全国家庭文書伝道協会)

©いのちのことは社 2025 44607
聖書新改訳 2017 ©2017 新日本聖書刊行会

私たちは、エホバの証人(ものみの塔)、モルモン教、統一協会ではありません。

決して変わることがない神とともに、人生の旅路を歩むとき、私たちは自分の価値や人生の目的を見出せます。神に知られ、神に愛されているという確かな土台の上に、自分らしい歩みを築いていけるのです。イエス・キリストはあなたに、生き方を変え続ける力を与えてくれます。妬みや憎しみは愛と赦しに、孤独と不安は喜びと平安に変えられていきます。「いのちの光」は、人生に深い意味と新たな希望を与えるのです。

「まことの光」についてもっと知りたい方は、ぜひ聖書を読んでみてください。イエス・キリストが信



じるに値するお方かどうか、ご自身で聖書を通して確かめていただきたいのです。聖書は、人生の意味を求めるすべての人に開かれています。またキリスト教会は、一緒に聖書を読み、神とともに生きることを互いに励まし合う地域のコミュニティです。あなたが、聖書と教会を通して、まことの光として来られたイエス・キリストに出会い、いのちの光を持つことができますように。メリー・クリスマス!

じるに値するお方かどうか、ご自身で聖書を通して確かめていただきたいのです。聖書は、人生の意味を求めるすべての人に開かれています。またキリスト教会は、一緒に聖書を読み、神とともに生きることを互いに励まし合う地域のコミュニティです。あなたが、聖書と教会を通して、まことの光として来られたイエス・キリストに出会い、いのちの光を持つことができますように。メリー・クリスマス!

しんと静まり返った冬の夜は、どこか心細さを感じさせます。空気は澄んでいるのに、暗く長い夜が続くと、ふと立ち止まって考えてしまうことがあります。

「私の人生には、どんな意味があったんだろうっ?」

「これから先に、どんな希望があるんだろうっ?」

あなたはこれまで、どのような道を歩んでこられたでしょうか。自由に生きることがを願い、やりがいのある仕事や勉強に打ち込んできた日々。誰かの笑顔が見たくて、家族や友人のために尽くしてきた時間。誰にも見せなかった、ひたむきな努力や流した涙。人生の価値をどこに見出すかは、人それぞれかもしれませんが、社会に貢献する。家族のために生きる。好きなことに情熱を注ぐ。どれも素晴らしい生き方です。

しかし、ある程度年を重ねると、それらが移ろいやすいものであることを知るようになります。家族との関係が壊れることもある、仕事を失うこともある。健康も、評価も、時には信頼さえも、ある日突然ぐらつくことがあります。大きな自然災害は、人が築き上げてきたものを一瞬で奪い去ってしまいます。

また、ストレスや生きづらさを感じる日々の中で、自分が思っていたほど強くなく、案外迷いやすい存在であることに気づいたこともあるでしょう。どうしようもない孤独やむなしさ。過去の出来事に対する後悔やうしろめたさ。死んだらどうなるんだらうという漠然とした不安……。そんな思いが心を占めるときは、誰かの優しい言葉や、ネットでの密かな気晴らしに癒しを求めて、なんとか自分を守ろうとするかもしれません。

私たちは皆、誰かとつながり、何かに生きがいを見出して生きていきたいと願っています。言い換えれば、そこに、救いを求めて生きているのではないのでしょうか。けれども、それらは私たちが願うほどには、自由で幸せな人生を保障してくれるものではないと気づいたとき、私たちは改めて人生の意味を問い直さずにはいられません。「自分にとって本当に大切なものとは何なのだろうっ?」

※※※

あなたにとって、神とほどのような存在でしょうか。聖書に示されている神は、とてもユニークな存在です。全世界を創造された主権者でありながら、私たち一人ひとりと個人的に関わるうとされるお方です。人間は本来、その神を信頼し、神との人格的な関係をもって生きるように造られました。

ですから、私たちが神以外の何かや誰かに「救い」を求めても（たとえそれがどれほど素晴らしいものであっても）、本当の意味で心が満たされることはない、聖書は語りまします。神以外のものに「救い」を求め、それを心の支えとして自分らしく生きようとする私たちの性質——それが罪です。その罪が、私たちの本来持つべき神との関係を損なわせ、私たちをますます孤独にします。

あなたはこれまで、聖書が示す神のことをほとんど知らずに生きてこられたかもしれませんが、神から離れ、罪という闇の中を歩む私たちが、神とのつながりを取り戻し、揺るがない人生の拠り所を見出したいと願うなら、まことの神へと導いてくれる「光」のような存在が必要です。

「すべての人を照らすそのまこと
の光が、世に来ようとしていた」

(ヨハネの福音書1章9節)

聖書は、この「光」がイエス・キリストであると語っています。クリスマスは、このまことの光であるイエス・キリストの誕生を祝う日です。イルミネーションやクリスマスツリーなど、美しい光で暗闇を照らす様子は、「すべての人を照らす光」の到来を象徴しているかのようです。

「わたしは世の光です。わたしに従う者は、決して闇の中を歩むことがなく、いのちの光を持ちます」(ヨハネの福音書8章12節)

イエス・キリストは、私たちが闇の中を歩まないように、神のもとへと導く光です。罪のないこのお方は、私たちの罪を代わりになんて十字架にかかり、死からよみがえってくださいました。そのことによって、私たちが神との関係を回復する道が開かれたのです。この救い主イエス・キリストを信じるなら、私たちは神とつながって生きるすることができます。